

#### 49. 口腔外科領域疾患に対する高気圧酸素治療の経験

水城春美\*<sup>1)</sup> 松本有史\*<sup>1)</sup> 清水正嗣\*<sup>1)</sup>  
川島真人\*<sup>2)</sup>

(<sup>\*1)</sup>大分医科大学歯科口腔外科学教室  
(<sup>\*2)</sup>医療法人玄真堂川島整形外科病院)

今日、高気圧酸素治療 (HBO) は種々の疾患の治療に用いられている。われわれは、1985~1994年の10年間に顎骨骨髓炎を主体として、いくつかの口腔外科領域疾患に HBO を適用し若干の知見を得たので、その結果を報告する。

症例は男性3例、女性11例で、年齢は23~74歳であった。HBO 開始時の診断は顎骨骨髓炎およびその疑いが11例 (うち亜急性性1例、慢性7例、放射線性3例)、移植骨感染1例、下歯槽神経炎1例および顔面神経麻痺1例であった。これら14症例に対して12~156回の HBO を施行し、有効が8例、無効が6例であった。疾患別では、骨髓炎あるいはその疑いの11症例のうち、亜急性性の1例、慢性硬化性の2例および放射線性の3例においてはいずれも有効であったが、残りの5例においては無効と判定した。これら5症例は、慢性骨髓炎あるいはその疑いと診断し HBO を開始したが、その後の経過ならびに諸検査の成績から慢性疼痛と考えられた症例であった。下歯槽神経炎の1例においては本療法により疼痛の軽減が得られ、また顔面神経麻痺の1例においても本療法により症状の改善が得られた。移植骨感染症例においては、本療法によっても改善が見られないことから計12回で中止した。

HBO の適応は拡大されつつあるが、疾患あるいは病態により成績が異なることから、本療法の適用に際しては、的確な診断が重要である。しかし、炎症性疾患との鑑別が難しい慢性疼痛においては、本療法が非侵襲的で副作用もほとんどなく、かつ慢性疼痛はきわめて難治性であることから、その治療法の1つとして HBO を試みる意義は十分にありと考える。

#### 50. 高圧酸素療法による口腔領域各種疾患の治療経験第2報

川島清美\*<sup>1)</sup> 杉原一正\*<sup>1)</sup> 向井 洋\*<sup>1)</sup>  
吉田雅司\*<sup>1)</sup> 国芳秀晴\*<sup>1)</sup> 山下佐英\*<sup>1)</sup>  
北野元生\*<sup>2)</sup> 有川和宏\*<sup>3)</sup>

(<sup>\*1)</sup>鹿児島大学歯科部口腔外科学講座第1  
(<sup>\*2)</sup> 同 歯学部口腔病理学講座  
(<sup>\*3)</sup> 同 医学部附属病院救急部)

高圧酸素療法 (以下 HBO) は、口腔外科の領域においては、難治性の顎骨骨髓炎を初めとして、口腔再建術後に生じる皮弁壊死、瘻孔ならびに縫合不全等の難治性疾患の治療に使用され、その有用性が認められている。今回われわれは、HBO を用いて、これらの疾患の治療を行い、若干の知見が得られたので、その臨床的概要について報告する。

【対象ならびに方法】平成元年3月より平成6年6月までの6年3ヵ月間に、鹿児島大学歯科部附属病院第1口腔外科の患者で、鹿児島大学医学部附属病院救急部で HBO を受けたもの16名であった。内訳：急性化膿性下顎骨骨髓炎1例、慢性化膿性下顎骨骨髓炎3例、慢性硬化性下顎骨骨髓炎1例、放射線性下顎骨骨髓炎3例、皮弁壊死1例、瘻孔2例、皮弁壊死+瘻孔2例、皮弁壊死+瘻孔+縫合不全1例、縫合不全1例であった。内2名は途中で中止していた。

【結果】急性化膿性下顎骨骨髓炎1例、慢性化膿性下顎骨骨髓炎の2例、放射線性下顎骨骨髓炎2例、皮弁壊死1例、瘻孔2例、縫合不全1例については良好な結果が得られた。皮弁壊死1例、瘻孔1例ならびに皮弁壊死+瘻孔1例に MRSA が検出されたが、いずれも早期に消失した。

【結論】下顎骨骨髓炎に関しては、HBO と外科的療法を併用することにより顎骨の温存を図ることができた。皮膚瘻孔については、創傷治癒期間が短縮したような印象が得られた。顎骨と軟組織の間に死腔が介在する瘻孔は HBO のみでは限界があり、外科的処置との併用が必要であった。